

オオマツヨイグサは自然環境のバロメーター

能登のオオマツヨイグサ群生 (石川県羽咋郡志賀町)

随分以前の事となって、記憶が定かではないが、フィルム時代の事なので、1980年代だと思ふ。能登半島の何かを取材する目的で、夜中に自宅を出た。明け方、能登の入口辺りにさしかかって、突然この風景に出逢ったのである。能登では、このように国道沿いであっても、まだまだ未開発の更地が残っていた。海岸沿いであつたので、砂地である。一面黄色い花で埋め尽くされている光景に、思わず車をUターンさせた。後にも先にも、これ以上の群生に出逢った事はない。現在、この地は開発が進み、オオマツヨイグサの姿は全く無くなっている。

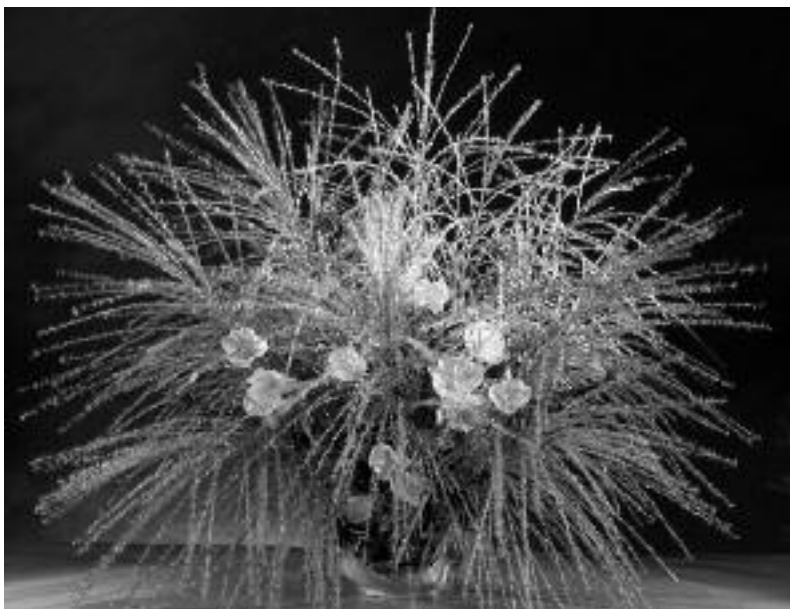
オオマツヨイグサは明治期に観賞用として輸入された。もともと北アメリカ原産の花で、ヨーロッパで品種改良されたという。しかし、この花別名を月見草とか宵待草と呼ぶように、暗くなってから開き、翌日にはしぼんでしまう。夜にしか花を見る事ができない。そのため、実際に流通する事はなかった。それが、野に放たれて、野生化することとなった。かつては、至る所で見られたが、近年ではかなり稀な帰化植物になってしまった。戦後、都市環境に強い、メマツヨイグサやアレチマツヨイグサに追われて、生育場所を失いつけている。この花が咲いていれば、自然環境が保た

れた場所といえるくらい、人の手の入った所を嫌う植物である。

「野の花アレンジ」や「ボタニカルフォト」を多数制作していた頃、筆者のテリトリーでは、四ヶ所の生育地があつた。2019年、この全てで姿を消している。わずか30年程で絶滅してしまったのである。ほとんどの人々が認識していないうちに、自然はかなりのスピードで変化が起きている。



●撮影地



野の花アレンジ作品

(ススキ、オオマツヨイグサ、タムラソウ)

オオマツヨイグサは、夜に開きそうな蕾を採取して、暗室に入れておくと、一時間程で開く。ススキ以外は、現在では入手不可能になった。欲しいだけ手に入った時代、まさか、絶滅するとは、考えもしなかった。



ボタニカルフォト作品